

平成28年度第3回情報教育研究委員会情報専門教育分科会議事概要

I. 日 時：平成28年10月27日（木）18：00～20：00

II. 場 所：私立大学情報教育協会事務局 会議室

III. 出席者：大原主査、須田委員、松浦委員、高田委員、斎藤アドバイザー、バンダイナムコスタジオ（事務局）井端事務局長、野本

IV. 議事内容

構想力・実践力を目指した分野横断型 PBL 授業モデルについて、まとめのメモとして、「1. モデル提案の背景」、「2. 授業モデルの仕組み」、「3. 産学・地域社会による連携授業の進め方」が提示され確認された。その上で、「4. 構想力・実践力を目指した分野横断型 PBL 授業モデル」について、情報通信系教育モデルを中心に以下のような検討が行われた。

(1) 情報通信系教育のモデルについて

- ・ 運動のデータ取得により健康・医療情報と組み合わせるなどのビジネスモデルとして、解決策の具体化（デジタルサービス）、ステークホルダを考え、何がどのようにつながってビジネスになるのかを考えるモデルが提案された。
- ・ 整理するフォーマット（IoT キャンバス定義フレーム）の用語については、デジタルサービスは「解決策の具体化」、ステークホルダー一覧は「考えるべき要素や仕掛け」に置き換えた方が分かりやすいのではないかと。
- ・ 学生の学修内容としては、ビジネスモデルの提案に留めてはどうか。IoT 関連のテーマとしては、サービス定義までに留めて、試作までは行わないことも考えられる。
- ・ 問題解決に結びつきそうなその他のテーマとしては、いじめ対策など身近な問題で考えられないか。健康予防の脈拍データ送信など、学生が楽しく出来そうなテーマを出してはどうか。
- ・ デジタルサービス（解決策の具体化）までを学生が提案し、教員・企業による助言や価値を見いだせるかの評価を行うことではどうか。

(2) 分野横断型 PBL 授業モデル全般について

- ・ 分野横断の方法の一つとしては、有識者からの情報提供を受けることが考えられる。
- ・ 大学によっては、どこまでやるのかを選択できる形式が良いと考える。
- ・ つくられたものの評価コンテストを行うなどで、第三者の助言・評価を受けることではどうか。同じテーマでのビジネスモデル提案と実現の可能性を図ることを通じて、学びの仕方を植え付けることではどうか。
- ・ 企業としては、他社が出していない意外性に目を付けたい思いがあり、独創性が求められる。
- ・ 社会をどのように変えるのか、社会を変えるための有益な視点としてビジネスモデルを考えさせる必要があるのではないかと。
- ・ モデルとしては、授業の仕掛けと評価の仕掛けについて考えたい。また、今回検討を行わなかった「コンテンツ・サービス系教育」と「ソフトウェア開発」を含めて3モデルを考えることにしている。

V. 今後のスケジュール

- ・ 次回の委員会は11月21日に開催し、(1) 情報通信系教育のモデル、(2) コンテンツ・サービス系教育のモデル、(3) ソフトウェア開発のモデルについて検討することにした。